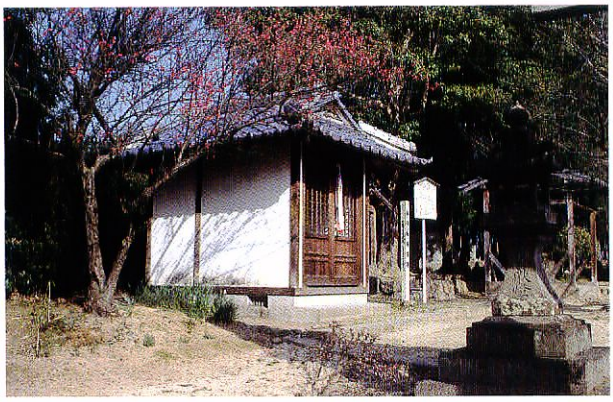
とすの文化財解説シート　指定文化財シリーズNo.３

薬師如来座像（やくしにょらいざぞう）

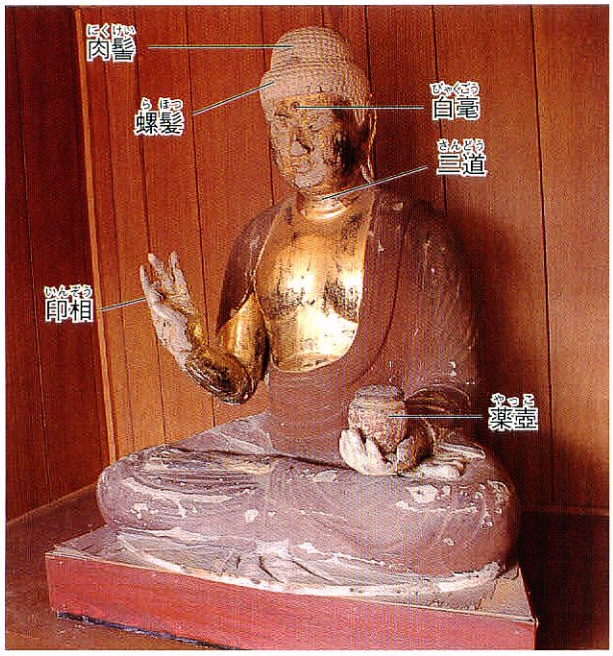
鳥栖市重要文化財（美術工芸品）

鳥栖市教育委員会

所　在　地	鳥栖市幸津町１２４５番地（幸津天満宮境内）
管　理　者	幸津町
指定年月日	昭和５３年４月１４日



薬師如来座像を祀る薬師堂



薬師如来座像の部位名称

薬師如来座像は、像高87.4cmのほぼ等身大の座像で、幸津町の天満宮境内にある薬師堂に安置されています。市内にある数少ない仏像の中では時代が最も古く、平安時代後期（12世紀後半）の作と推定されています。ヒノキ材による寄木造りで、現状では光背と台座が失われていますが、優雅流麗な和様彫刻である「定朝様」の特徴がよくあらわれています。

この仏像が造られた平安時代後半期は、文化史や美術史の区分では「藤原時代」といい、それまでの唐風文化の影響を脱し、和様の国風文化が花開いた時期で、地方にもその影響が現われていることがうかがえます。この薬師如来座像もそうした中で、おそらく都で定朝様を学んだ地方仏師によって製作されたのでしょう。

この薬師如来座像が幸津天満宮に伝えられている由来については不明ですが、近世以前の神仏習合の風習を伝えるものとしても貴重なものです。なお、現在見られる漆箔（漆を塗った上に金泥などを重ねる技法）や衣の彩色および左手に持つ薬壺は、江戸時代後期の文化10年(1813)の修復の際によるものです。

■如来とその特徴

如来とは、如（真如、真実）から来生した者という意味で、修行して悟りを開いた覚者のことをいいます。ですから、一枚の大きな裳と袈裟を身にまとうだけで、装身具や宝冠はつけていません。また、俗人には見られない超人間的な特徴を備えており、三十二相とか八十種好と呼ばれています。頭の頂きが隆起した肉髻、螺髪とよばれる巻き毛、額の白毫や手足の水かき（縵網相）や肉体が金色に輝く（身金色相）等の特徴がそれですが、如来はこうした超能力によって衆生を救済すると考えられています。

諸仏諸尊は、手を伸ばしたり曲げたりあるいは指を様々な形に結んでおり（印相）、内面的な意思を表しています。また、仏の慈悲を十分に施すための道具として、各々の働きに応じた各種の持ち物（持物）を手にしています。この仏像は、右手は来迎印を結び左手に薬壺を持っています。